

(様式1)

谷西高 第 199 号

平成 30 年 2 月 22 日

高等学校教育課長 様

学番 5 1 新潟県立小千谷西高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

## 小千谷西高校

### 【テーマ】 地域の未来を切り拓く人材育成 ～地元とのコラボレーションによる「おぢやモデル」の構築～

#### 【目標】

- 小千谷の地において、小千谷西高校を核として、地元自治体、関係団体、企業等、地域の主要な各プレイヤーと連携した教育活動を行い、当該地域の未来を切り拓く人材育成プログラムを構築するとともに、その円滑な実施に努める。
- こうした活動の成果を発表する機会を通じて、地域の各小・中学校において行っている職場見学・職場体験等のもとよりキャリア教育全般について理解を深め、地域内での小・中・高一貫したキャリア教育を展開する。

#### 【取組の概要】

- 地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立
  - ・ 学校設定科目「キャリア実習」の定着と、内容の一層の充実を図った。
  - ・ メカトロニクス系列や機械部におけるこれまでの地域連携取組の一層の充実を図った。
  - ・ 工業科以外の教科における地元とのコラボレーションの可能性を追求し、実践した。
- キャリア教育を推進するためのイベントを市と連携して開催
  - ・ 小千谷市・小千谷市教育委員会と連携し、市内 5 中学校の 1・2 年生全員を対象として、地元企業や小千谷高校とともに、市内中学生の主体的な進路選択と将来の地元定住に資するべく、平成 27・28 年度の成果と課題を踏まえて「おぢやしごと未来塾」を開催した。

#### 【取組の成果】

- 様々な科目を有する小千谷西高校において、授業をはじめとした教育活動全体の一層の特色化を進めた。また、地域の中学校におけるキャリア教育の一端を理解することで、産業社会と人間や総合的な学習の時間等、ガイダンス的要素を持つ教育活動の工夫・改善につなげる必要性について職員の機運醸成を図った（総合学科におけるおぢやモデル）。
- 中学校 2 年生が、12 月に将来を見据える活動を行うことにより、一層主体的な進路選択が可能となることから、小千谷市・小千谷市教育委員会・小千谷高校とともに「おぢやしごと未来塾」を開催した（小・中・高一貫した早期からのキャリア教育におけるおぢやモデル）。
- 地域企業等においては、高校生受け入れ等の活動が、当該生徒（高等学校）に対する取組にとどまらず、地域の未来を担う中学生や高校生にひろくアピールする機会となることを「おぢやしごと未来塾」や「キャリア実習取組成果発表会」の開催により具体化した（地域の未来を切り拓く人材育成におけるおぢやモデル）。

## 【取組の成果（詳細）】

### 1 「地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立」について

#### (1) 科目「キャリア実習」(教科：産業社会)の取組

##### ア 科目の概要

- ・ 地域の企業等と連携し、授業時間において、長期間にわたり企業等での現場実習を行うことにより、生徒の勤労観や職業観を養い職業意識を高めるとともに、地域産業の発展に貢献することのできるより実践的な技術や能力を身に付けさせることを目的とする科目である。
- ・ 授業時間は火曜日の5・6限、年間のスケジュールは次のとおり。

4月～5月 校内指導、意識付け、実習先決定、企業への事前訪問

6月～11月 企業での実習（毎週火曜日 13:30～17:00 約15回）

12月～3月 校内指導、報告書作成、取組成果発表会



##### イ 平成29年度の工夫・改善

- ・ 平成29年度は15人が選択し、12事業所において実習を行った。受入意向調査、事前・実習中訪問、取組成果発表会などの機会をとらえて意見交換することにより、受入企業との連携の強化が図れた。また、今年度、科目選択者数が減ったことにより、実習先として依頼しなかった事業所を訪問し、「キャリア実習」について意見を伺うとともに、今後の協力要請を行うなど、地域企業との連携体制の強化維持ができた。

##### ウ おぢやしごと未来塾の開催(H29.12.12)

- ・ 小千谷市内中学校2年生全員を対象に、パネルディスカッションを実施した。「キャリア実習」を履修した生徒もパネリストとして参加し、受入企業の方とともに、中学校2年生の進路選択の参考とするため、当校における「キャリア実習」や学校の様子についてお話しさせていただいた。

##### エ キャリア実習取組成果発表会・地域の声を聞く会(兼学校評議員会)の開催(H30.2.13)

- ・ キャリア実習の成果発表会は、1年次生全員を対象として成果を共有するとともに、地域の声を聞く会を同時開催することにより、受入企業のみならず地元関係者等より幅広く参加していただくこととし、取組成果や地元企業の紹介をより多くの方に理解していく機会とした。
- ・ 生徒の司会で、パワーポイントを用いた発表の後、受入企業の方から指導講評をいただき、それを聴いた1年次生が発表者の評価を行った。
- ・ 参加者の感想は概ね好評で、もっと多くの生徒に履修してほしい、この取組をもっと多くの人に知ってほしい等の声が聞かれた。



#### (2) 科目「調理」(教科：家庭)の取組(H29年度新規)

##### ア 取組内容

- ・ 消費者の一員として地産地消の大切さを理解させるために、生徒が地元農産物を用い、小千谷を象徴するお弁当を作成する取組を行った。
- ・ 7月には、小千谷の食の魅力についてご講演、8月にはレシピ作成指導、9月には「おぢや弁当」作成指導と、地元のおぢや食おこし隊の隊員様よりご協力をいただいた。

- 各グループがそれぞれ考案した「おぢや弁当」のレシピを10月に西高祭で展示発表した。その後、英語科と教科を横断して連携し、科目「英語会話」の履修者が、小千谷市に滞在する外国人留学生の協力を得ながら、このレシピを英語に翻訳し、学校ホームページに掲載した。



### (3) 科目「ファッション造形」(教科：家庭)の取組

#### ア 取組内容

- 11月、小千谷市織物同業協同組合の体験工房において、あらかじめ染められたよこ糸の柄をあわせながら機で織っていくかすり織を体験した。また、小千谷縮の歴史を学んだ。
- 1月、自ら制作した浴衣の着付け体験を行った。会場は小千谷市総合産業会館サンプラザの和室。小千谷市織物同業協同組合の職員様より浴衣の着付け指導をしていただいた。

#### イ 平成29年度の工夫・改善

- 浴衣の制作、着付け、小千谷の伝統工芸の学習を有機的に関連づけながら指導計画の作成にあたった。



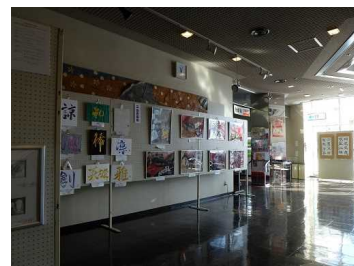
### (4) 科目「美術Ⅲ(美術)」、「版画(美術)」、「臨書技法(書道)」、「創作技法(書道)」、「工芸書表現(書道)」、「商業書表現(書道)」(教科：芸術)の取組(H29年度新規)

#### ア 作品内容

- 美術Ⅲ…金属加工の盛んな地元を意識し、ロストワックスを利用した鋳造により指輪を製作した。
- 版画…エッチング、アクアチントにより表現した銅版画を製作した。
- 臨書技法…半切4分の1の大きさに篆書、隸書を、半紙に仮名を臨書した。
- 創作技法…半紙に漢字2文字を創作し、また現代文を自由に表現した。
- 工芸書表現…好きな文字を自由に創作し板に刻した。
- 商業書表現…内容は下記(5)のとおり。

#### イ 小千谷市総合産業会館サンプラザでの展示(H30.1.26~2.9)

- 本校の特色である豊富な芸術科目の成果を広く認知してもらうために、作品を展示し、市民の方にご覧いただいた。



### (5) 科目「商業書表現(書道)」(教科：芸術)の取組

#### ア 科目の概要

- 伝統的な書作品や現代の様々な芸術作品の表現方法を学び、「商業書道」の表現方法を工夫する。郷土の文化や産業をテーマとするため地域との連携を図ることとしている。
- 今年度は、地元小千谷市の伝統行事である「闘牛」をテーマに、生徒がフレーズを書き込み、ポスターとして制作した。
- ポスターの画像素材は小千谷観光協会様よりご提供いただいた。また、外部講師として地域のデザイナーの方より11月と1月の2回、指導・助言をいただいた。



## イ 平成 29 年度の工夫・改善

- ・ 外部講師の方よりポスターデザインについて説明いただくことで、1 学期に学習したコンセプトやプレゼンテーションの重要性について復習できるよう計画した。

## (6) 科目「英語会話」(教科：英語科)の取組

### ア 取組内容

- ・ 小千谷の伝統や文化を紹介する文章を作成し、スピーチすることとした。地域の教育資源を活用して地元の理解を深めつつ、生徒のより主体的な学びにつなげようと試みた。

### イ 授業での「小千谷の紹介」

- ・ 紹介するテーマは、「ラーメン」、「錦鯉」、「山本山からの景色」「そば」、「闘牛」、「雪」、「季節の花」、「おぢや祭り」、「制服」などである。
- ・ 生徒は、3～4人のグループごとに、テーマやスクリーンに投射する画像を決め、それぞれの視点で紹介する英語の文章を作成して発表した。
- ・ なお、スピーチに用いた画像の素材は、小千谷観光協会様より快くご提供いただいた。



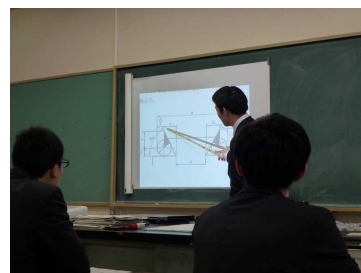
## (7) 科目「数学Ⅲ」(教科：数学科)の取組 (H29 年度新規)

### ア 取組内容

- ・ 地元企業の協力を得て、実社会において数学がどのように使われているかを知り、学習意欲の向上を図るとともに、地元産業の理解にもつなげる。

### イ 授業における紹介事例

- ・ 株式会社第一測範製作所様の協力を得て、業務において三角関数を用いる事例を様々紹介いただいた。授業では、アリ溝を加工した際に、正しい寸法に加工されたかを、三角関数を用いて確かめることができることを理解させた。



## 2 「総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催」について

### ～おぢやしごと未来塾～の開催

#### (1) 平成 28 年度の振り返り

2年目の開催となった平成 28 年度は、前年度の反省を基に様々な改善を行い、参加した中学校の生徒及び教職員、事業所ブース出展者、さらには地元新聞等において、一定の評価を得た。今年度も、事後アンケートで寄せられた様々な意見を実施者である小千谷市、小千谷市教育委員会、小千谷高等学校並びに本校職員が分析し、改善策を立案して実施することとした。

#### (2) 平成 29 年度の改善点

- ・ 県内大学のブース出展
- ・ 社会人パネリストの職種の拡大
- ・ 中学生への事前企業プロフィールの配付
- ・ 中学生の事前グループ編成、行動計画作成 など

#### (3) 次年度以降の方向性

- ・ 今年度の改善についても、参加した中学校の生徒及び教職員、事業所ブース出展者、関係



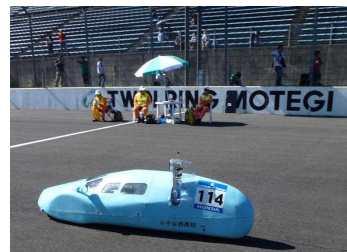
者等において、概ね好評であった。

- ・ 次年度以降については、今年度の取組をベースにしつつ、反省点や改善意見をもとにブラッシュアップして、中学生が地元の高等学校の取組や地域の産業の魅力を理解できて、より主体的な進路選択につなげることができるイベントへとさらに発展させていく。

### 3 その他

#### (1) 部活動「機械部」の取組

- ・ 平成 29 年 10 月 1 日、機械部が、「Honda エコ マイレージチャレンジ 2017 第 37 回全国大会」に、5 年連続で出場した。
- ・ 昨年の課題を克服するため生徒達がエンジンパーツや外装などを改良してマシンを仕上げた。その過程で、小千谷の鉄工と電子の両産業を担う人材育成の場として設けられた「テクノ小千谷名匠塾」にてクランクシャフトにキー溝加工を施した。
- ・ 成績は昨年の記録には惜しくも及ばなかったが、燃費 784.5 km/l であった。順位は 28 位(エントリー136 台、完走 94 台)で、出場した県内高等学校の中でトップであった。



#### (2) 部活動「写真部」の取組 (H29 年度新規)

- ・ 昨年度の小千谷市展で市長賞を受賞したことを受けて、各展覧会への出展要請をいただいていた。高校生のみずみずしい感性を期待してのことである。
- ・ 南魚沼市浦佐の池田記念美術館で1月20日から3月27日まで開催されている「魚沼ベストショット展 Part VII」に、江戸期より260年続く伝統の藍染めをテーマとした作品8点を展示した。



#### (3) インターンシップの実施

- ・ 夏季休業中に、小千谷市商工振興課の協力を得て、全学年の生徒の希望者を対象に、市内の企業等において1～5日のインターンシップを実施している。
- ・ 平成 29 年度は 21 事業所において、46 人が参加した。
- ・ 今年度は新たに小千谷総合病院より4名を受け入れていただき実施することができた。
- ・ 保育園や病院など、キャリア実習では受入が困難な分野について、インターンシップを利用することができ、生徒にとって職業体験の貴重な場となっている。

#### (4) 先進校等視察（筑波大学附属坂戸高等学校、群馬県立吉井高等学校）

- ・ 筑波大学附属坂戸高等学校で開催された総合学科研究大会・SGH 研究大会に出席し、生徒が主体的に取り組む少人数のアクティブラーニング型の授業を参観した。産業社会と人間や総合学習の時間で、自ら目標を立て、実行し、検証をして、次の活動に生かすというサイクルがしっかりとできているところは、様々な場面で活用していきたいと感じた。
- ・ 群馬県立吉井高等学校では、学校づくりのコアとなる総合学科について考える分掌があり、育てたい生徒の3年間のビジョンを、全職員で話をしながら作っていくとのことで、本校にも必要なことであると感じた。また、アクティブラーニングについても、研修を行うことで、多くの職員が取り入れられるように工夫がされていた。

## 【総合所見】

### 1 「地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立」について

#### (1) 科目「キャリア実習」

- ・ 平成 29 年度においては、これまでで最大の選択者数(23 人)、事業所数(20 事業所)であった前年度から数的には減少したが、科目の認知度も向上しており、取組自体は軌道に乗ってきた。また成果発表会出席者からも、高い評価をいただいている。
- ・ この科目をより充実・発展させるため、授業を通じて何を身に付けさせたいのか、今一度狙いを明確にして指導を行う必要がある。
- ・ 平成 30 年度の選択者数は 10 人となる見込みであり、引き続き前年度を下回る事となる。事業所との良好な関係を維持しつつ、持続可能な実施形態を模索していく必要がある。

#### (2) 上記(1)以外の科目等

- ・ 平成 27 年度以降、芸術科や家庭科の科目において、これまでの取組を踏まえつつ、地域の施設や外部講師、その他地域の教育資源をこれまで以上に活用した取組を進めてきた。
- ・ 今年度「調理」における地元食材を用いた弁当づくりの取組では、英語科との教科横断的な取組に加え、外国人留学生を活用するなど新たな方向性も見せた。来年度以降も引き続き地域の教育資源を活用しながら生徒の主体的な学びに結びつけ、「力」を身に付けさせることが課題であり、他の科目においてもこうした取組を進めることとしている。

### 2 「総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催」について

#### (1) おぢやしごと未来塾

- ・ 中学校・高等学校・行政・企業や団体が関わった「おぢやしごと未来塾」を 3 年連続で開催することができた。小千谷市には、市内に異タイプの高校が 2 校、市立の 5 中学校の生徒数が 900 人以上、熱意や確かな技術を持つ魅力的な企業等、いくつかの要素が備わっている。
- ・ 今後も、すべての関係者の意向を尊重して、関わる人すべてが「win, win, win…」の関係となるべく継続的に開催することが課題である。引き続き、様々な団体がより参加しやすく、かつ継続して実施するのに最もふさわしい規模・内容・形態・実施主体を検討してゆく。

### 3 その他

#### (1) 部活動等の取組

- ・ これまでの機械部、書道部に加えて、写真部等の活動による地域との関わりが深まりを見せた。こうした取組は、生徒にとっては発表機会の増加、地域理解の深化等のメリットがあり、地域の方々にとっても活性化や高校生の活動への理解の深化等のメリットがある。今後も、地域の教育資源を活用した取組を一層充実させるべく、可能性を探る必要がある。

#### (2) キャリア教育グランドデザインの構築

- ・ 当校におけるキャリア教育の様々な取組を系統的に示す全体計画の再構築に向け、キャリア教育委員会が中心となって作業を進め、本校キャリア教育のグランドデザインが完成した。早速全職員で今年度の取組報告会を実施し、成果を踏まえつつ次年度への改善点を検討した。これからの生徒を育てるために必要な活動を今後も計画的に実施したい。その際、地域の小・中学校の取組や企業・団体の取組について情報収集を行い、小千谷の地における一貫したキャリア教育の構築を心がける必要がある。